

新型コロナウイルスによる生乳需給への影響を鑑み、直近の飲用等向けの販売状況の推移を中心に毎週発信してまいります。

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

《牛乳消費は変わらず堅調～春先の需給緩和に向けて需要拡大の取り組み強化を～》

・2/22週の牛乳類の家庭内消費については、前年割れに転じているが、昨年がコロナの影響（臨時休校等）によって家庭内需要が拡大し始めたタイミングであったことが影響しており、販売個数については引き続き堅調な推移となっている。

・ヨーグルトのドリンクタイプ・個食タイプについては低調に推移しており、大容量タイプについても前年を下回った。また、家庭用バターは引き続き堅調に推移しており、2019年度からは10%以上上回っている。

・なお、大消費地である1都3県においては、緊急事態宣言が延長される見通しとなっており、業務用需要は厳しい状況が続くものと想定される。生乳需給が緩和する恐れのある年度末以降に向けて、引き続き家庭用を中心に需要拡大の取り組みを継続してゆくことが重要となる。

【牛乳類の販売速報(推定値)：インテージSRI+】

(1)直近の動向(表①参照)

・直近(2/22週)の販売個数(前年同期比)は、牛乳：同99.0%、成分調整牛乳：同93.0%、加工乳：同92.9%、乳飲料：同92.7%。

牛乳類トータルでは同97.4%

※参考：2019年度比は、牛乳：104.3%、成分調整牛乳：79.9%、加工乳：170.9%、乳飲料：98.6%(牛乳類トータル：101.9%)

・販売単価は、牛乳：188.9円、成分調整牛乳：172.9円、加工乳：187.2円、乳飲料：150.0円。

(2)各品目とも前年が好調だった反動で前年割れとなっているが、販売個数は前週(2/15週)を若干上回っている。

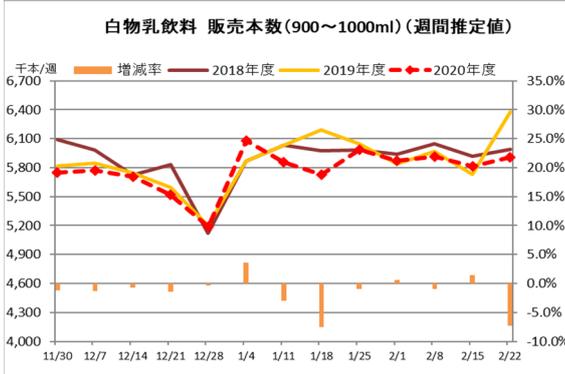
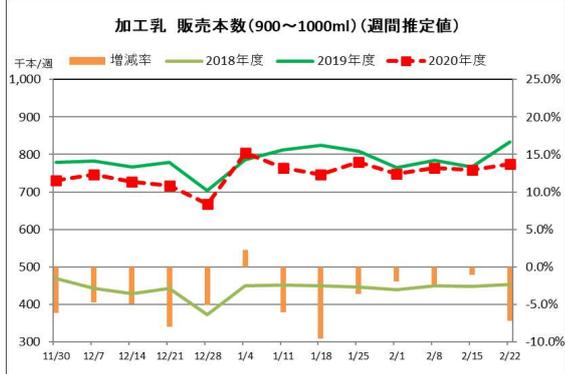
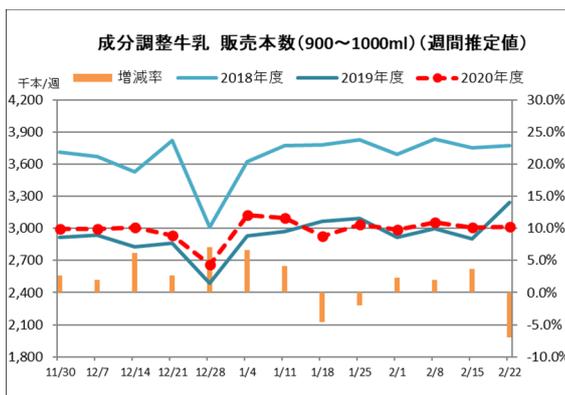
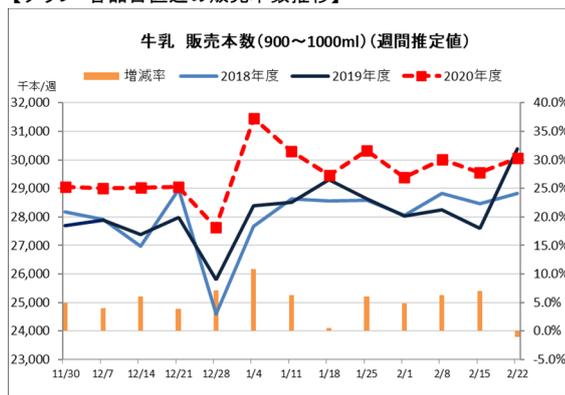
※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 直近の牛乳類の販売動向】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(単位：千個、円)

品目	区分	12.28-	1.4-	1.11-	1.18-	1.25-	2.1-	2.8-	2.15-	2.22-
トータル	販売個数	36,149	41,466	40,017	38,849	40,134	38,984	39,749	39,128	39,765
	販売個数前年比	105.8	109.2	104.4	98.6	104.0	103.8	104.6	105.8	97.4
	販売単価	183.5	182.7	182.6	182.2	182.0	182.1	182.0	182.1	181.9
牛乳	販売個数	27,634	31,460	30,302	29,453	30,336	29,376	30,016	29,549	30,065
	販売個数前年比	107.2	110.8	106.3	100.5	106.0	104.8	106.3	107.0	99.0
	販売単価	190.3	189.7	189.5	189.1	189.1	189.3	189.1	189.1	188.9
成分調整牛乳	販売個数	2,662	3,122	3,094	2,926	3,032	2,984	3,055	3,008	3,017
	販売個数前年比	107.1	106.6	104.2	95.4	98.0	102.3	102.0	103.7	93.0
	販売単価	173.1	173.3	172.6	173.0	172.7	172.3	172.4	172.5	172.9
加工乳	販売個数	667	804	764	746	779	749	764	758	774
	販売個数前年比	94.8	102.4	93.9	90.4	96.5	98.1	97.2	98.9	92.9
	販売単価	191.5	188.5	189.8	188.1	187.4	188.7	187.4	188.1	187.2
乳飲料	販売個数	5,186	6,081	5,857	5,725	5,987	5,874	5,914	5,814	5,909
	販売個数前年比	99.7	103.6	97.1	92.4	99.0	100.6	99.1	101.5	92.7
	販売単価	151.8	150.8	150.9	150.5	150.1	150.6	150.2	150.3	150.0

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):(一社)Jミルク調べ】

(1)直近の動向(表②参照)

直近(2/22週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%未満、個食タイプ(70~130ml):同90%未満、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

(2)各品目とも前年が好調だった反動で減少幅が拡大しているが、販売個数は前週(2/15週)を若干上回っている。

【表② 直近のヨーグルト類の販売動向】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

品目	12.28-	1.4-	1.11-	1.18-	1.25-	2.1-	2.8-	2.15-	2.22-
ドリンクタイプ	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
個食タイプ	↘	↘	↘	↓	↘	↘	↘	↘	↓
大容量タイプ	↗	→	→	↘	→	→	→	→	↘

↓	:前年比90%未満	↘	:前年比105%以上110%未満
↘	:前年比90%以上100%未満	↗	:前年比110%以上120%未満
→	:前年比100%以上105%未満	↑	:前年比120%以上

※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

※本データの収集・分析は、2020年度生乳需要基盤確保事業を活用し実施しております。